

のうね Noun+ PLUS

人と地域をつなぐ情報誌 春号



CONTENTS

- ✔ トピックス…P.2
- ✔ 企業の星、～「RIBBON'S CAFE」～…P.4
- ✔ 歴史の場所を歩く③①…P.5

まち協事業、コミセン活動に
たくさんの笑顔と元気を
ありがとうございました

令和5年 長畝地区区長会役員

- 会長 近藤 栄司 (石上)
- 第1ブロック長 池越 広 (堀水)
- 第2ブロック長 喜寿 正之 (山久保)
- 第3ブロック長 山下 秀二 (城北4区)
- 第4ブロック長 井上裕次郎 (与河)
- 第5ブロック長 堤 正樹 (里丸岡)



区長会長
近藤 栄司 さん

長畝地区のみなさまにおかれましては、日頃から区長会の活動にご支援とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。長畝地区は歴史的な史跡もあり、豊かな自然に囲まれています。今の時期は特に野鳥の声が心地よく響き渡っております。そんな自然豊かな長畝地区ですが、近年では高齢化や少子化、青少年の健全育成、環境問題が地域の課題となってきました。区長会はそのようなさまざまな課題や要望をのうねの郷づくり推進協議会と協力し、みなさまが安心して暮らせるよう取り組んで参ります。

今度とも、長畝地区のみなさまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**更なる長畝地区の発展のため
1年間よろしく願いいたします**

編集後記

春の兆しを感じる今日この頃、みなさんはどんな時に「春だなあ」と思えますか？私は鼻がムズムズしたりくしゃみが止まらなくなったり、あゝ春が来たなあと感じます。コロナ対策でのマスク着用も「脱マスク」になる中、私はまだまだマスクが手放せません。こんな私にはツライ季節ですが、春は新しいことにチャレンジしたくなる季節でもありますね。何を始めようかと思った時、今年度広報紙で紹介したまち協の事業やコミセン講座がやりたいことのきっかけになるかもしれません。「これやってみたい」「参加したい」というものがありましたら、ぜひ参加してみませんか。新たな趣味が見つかるかもしれませんよ。

(まへくらもち)



放課後子ども教室
in のうねの郷コミュニティセンター

クリスマスケーキを作ろう!

12月17日(土) 講師: 朝倉 雅美

ふわふわスポンジ、たっぷり生クリーム♪
クリスマスケーキ作りに8名が参加。スポンジ生地は粉をしっかり振り混ぜてオープンにin! 焼いている間に生クリームをミキサーを使って交代でホイップ。ちょうど良い硬さになったら焼けたスポンジにデコレーション。自分だけのオリジナルクリスマスケーキが完成しました。



生クリームも
フルーツも
たくさん♡



これからの予定

- ☆ 4月2日(日)
春のふるさとウォーキング (小雨決行)
ふるさと"のうね"を満喫しませんか♪
※詳細は別紙チラシをご覧ください。
- ☆ 4月23日(日)
のうねの郷づくり推進協議会 総会
- ☆ 5月28日(日)
のうね健康まつり
「いこっさ、あおっさ、やろっさ」

「のうねの郷だより Noun+ 春号」

令和5年3月22日発行

◆ 発行・のうねの郷づくり推進協議会 ◆ 編集・じょうほう部会

〒910-0224 福井県坂井市丸岡町/ヶ郷24-9
TEL・FAX / 0776-66-7446 E-mail / noune-cc@city.fukui.sakai.lg.jp

おいしいヘルシー♡

「米粉スイーツ講座」

2/9
(木)

講師:松村 佳子 参加者9名

健康や美容にもうれしい、グルテンフリーの「米粉」を使ったスイーツ作り挑戦！米粉は「華越前」のものを使い、バレンタインデーも近かったのでラムレーズンブラウニーとビスコッティ、いちごスノーボールクッキーの3種類のお菓子を作りました。自分へのご褒美にヘルシーなスイーツが完成しました♡



開催:のうねの郷コミュニティセンター

米五のみそスタッフから教わる

「味噌作り教室」

2/24
(金)

講師:多田 健太郎(米五のみそ代表取締役) 参加者10名

体に良い発酵食品の味噌が材料を混ぜるだけでおいしくできる！とあって、毎年参加される方いるほど大人気の講座です。塩麴や八丁味噌の話聞きながら、40分程の作業時間で完成。味噌に仕上がる11月上旬までの置き場所や重石など、味噌の管理についても詳しく教えていただきました。



開催:のうねの郷第二コミュニティセンター

カラダよるこみ コミセン講座

プロから教わる

「野菜づくり講習会」

2/16
(木)

講師:村田 英一郎(元福井県園芸試験場長) 参加者17名

野菜作りの年間計画や土づくり・肥料等についての基礎を学び、春野菜や夏野菜の植え付け準備のポイントを教わりました。受講生のみさんは先生の丁寧でわかりやすい説明を熱心に聞き、時々メモを取るなど野菜作りに意欲満々でした。



開催:のうねの郷第二コミュニティセンター

令和5年度コミセン講座紹介

- 洋服リメイク術
- 体操のじかん
- コーヒーの淹れ方教室「オトナ塾」
- かんたん、おもてなし映え料理

4月に配布される『坂井市コミュニティセンター講座』『のうねの郷コミュニティセンター講座』のチラシをご覧ください。お申込みお待ちしております!!



Topics

長 畝地区区長会総会開催

令和5年区長会

2月17日(金) のうねの郷コミュニティセンターで長畝地区区長会総会が開催され、区長30名、来賓2名が出席しました。令和5年事業計画案・収支予算案について審議され、満場一致で可決されました。

また、のうねの郷づくり推進協議会への協力と地区要望書の提出等についても話し合わせ、区長会が本格的に始動しました。



ストップ! 飛び出し注意

危険個所にさとちゃん出現

あんしん・ふくし部会では、交通安全に寄与するため、長畝小学校の通学道を中心に、のうねの郷づくり推進協議会のキャラクター『さとちゃん』をイラストとし導入した交通安全グッズ「飛び出し坊や」を危険個所へ設置し、通行する車両運転者等に対し、人命の大切さと交通安全の必要性を訴えています。

本年度は長畝地区の住民の方々から要望にあったことから、「飛び出し坊や」を追加し必要な箇所に設置する方針です。

(文:あんしん・ふくし部会)



愛 車を“ダブルロック”で守ろう!

しっかり鍵かけ、盗難予防

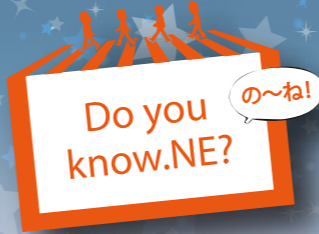
3月13日(月)、長畝小学校であんしん・ふくし部会から卒業を迎える6年生児童48名全員に防犯グッズとして、ダブルロック仕様のワイヤーロックを贈呈しました。

春から中学校に新1年生として入学し、通学の足として使う自転車は大切な乗り物です。これまで、自転車を盗まれる事案は多く、盗まれる場所の大半が学校や駅の駐輪場で、その盗難を防ぐ為にも鍵掛けは大切です。

「自転車とめたら必ずロック」を忘れず、楽しい学校生活を送って下さい。(文:あんしん・ふくし部会)



企業の星 VOL.2



株式会社松川レピヤン
丸岡町外田20-5-1
創業1925年。創業約100年の繊維製造業
URL: <http://rapyarn.jp>

手芸好きの小川さんが越前織やリボンに新たな価値に一役 ～レピヤンリボン直営店「RIBBON'S CAFE」の店長として活躍～

越前織の製造会社である株式会社松川レピヤンは、約7年前に、「レピヤンリボン」というファクトリーブランドを立ち上げた。今年1月には、そのレピヤンリボンを織っている丸岡町堀水にある工場「エイト」前に、レピヤンリボン直営店「RIBBON'S CAFE」をオープンさせた。



▲店長の小川さん

今回紹介する“企業の星”は、その「RIBBON'S CAFE」の店長、小川洋子さん（城北5区）。

同社の事務員として勤務していた小川さんは、幼いころから手芸が趣味だったため、ファクトリーブランドの発足に、「自分の会社でリボンを作ることになって、本当にうれしかった。どんなデザインが出来上がってくるのかなど、一人で勝手



▲店内にはハンドメイド雑貨の製作も体験もできる

にワクワクしていた」と振り返る。リボンを活用した製品の提案をしたり、営業のために県外で行われるワークショップなどに参加したりしてきたという小川さん。現在、同社サイト内に「ようこさんの手芸」を開設し、越前織やリボンを使ったさまざまな手芸品を紹介している。

そんな店長の小川さんは「RIBBON'S CAFE」を「リボン販売店にカフェがくっついているイメージで、誰でも気軽に訪れることができ、くつろげる場所にしたい。リボンの販売もしますが、その場で手芸を楽しんでもらったり、手芸好きが集って話し合ったりと、手芸にもっと興味を持ってもらえるようにしたい」と話す。手芸好きが高じて自宅にたくさんのリボンを集めているという小川さんは「今は大好きなリボンに囲まれて幸せです」と顔をほころばせる。そんな小川さんの熱量が、越前織やリボンの新たな価値の創造に一役買っている。

コミセンのロビーでごゆるり

玄関を入ってすぐ左側にあるロビーは、開館時間中どなたでもご利用できます。

コミセン使用後の仲間とおしゃべりや雑誌鑑賞など、ご自由にご利用ください。オンデマンドタクシーの待ち合わせや散歩中の休憩にもどうぞ。



▲フォトサークルの〜ね写真展示



▼最新の雑誌入ってます!

歴史の場所を行く③ 城北団地の歴史

城北区は昭和45年頃にできた長畝地区では最も大きい集落である。昭和44年に丸岡町が北部地区区画整理組合を立ち上げ、長畝区の南端の水田15ヘクタールを埋め立て、道路、上下水道工事を行い、区画割をし、県の住宅供給公社が200戸の分譲住宅を建てて売り出したのが最初である。その後、残りの分譲地も売り出され、取得した人がそれぞれ家を建てて全部で300戸を超える大きな集落となった。現在では最初の入居したところから30年以上も経過して、住民の

高齢化が進んでいるが、1区から5区までに約300戸に1000人ほどの人が住んでいる。団地ができたころは、日本経済の高度成長期で非常に活気あふれる社会であり、入居した人たちもみんな壮年期で、地区を自分たちで作り上げるという熱気にあふれていた。区の運営の決まりを作り、集落維持のための共同作業、子供会の運営、祭りや海水浴のレクリエーション活動など、区の維持運営に関するすべてのことを最初に入居した第1世代の人たちが頑張っ

てやってきて、他の地区にない活気ある集落が維持されてきた。最初に手掛けた事業は集会所と児童館の建設設置であった。集会所ができたのは昭和49年である。このころ戸数は200戸を超えていたが、一堂に会して話し合いをする場所がなかったので、町に要望して総工費400万円で作坪73平方メートルの集会所が作られた。これによって45年近く経過した今も集落活動の拠点として、利用されている。また、最初のころは若い世代の人がほとんどだっ

たので子供の数も多かった。一時は区全体で100人を超える子供の数だった。区内では子供会活動が活発だった。夏祭りをしたり、キャンプ、海水浴など子供会を中心とした行事が区民の結束の源だったそう。最近では子供の数が減ってきたので児童館は以前のほどの活気はないが、近くの集落も含めて放課後の子供たちの居場所として重要な役割を果たしている。



が見られるようになってきた。この区に限ったことではなく、長畝地区全体の問題である。コミセンを中心とした郷協の更なる活性化を期待したい。
(文責：水崎亮博)